

外来語に関する基礎的研究 (XI)

— “男性”にかかわる外来系「な」形容詞の意味用法 —

A Study of Loanwords in Japanese(XI)

— The Usage of Na Adjectives Belong to the Meaning Distribution Area of ‘Male’ —

戸田利彦
Toshihiko TODA

In the last paper, 15 Japanese adjectives (1 na adjective loanwords, 7 pure Japanese adjectives and 7 Japanese adjectives of Chinese origin) which belong to the meaning distribution area of ‘elegance’ based on Ruigo Kokugo Jiten were analyzed from the three points of view.

In this paper, 15 Japanese adjectives (1 na adjective loanwords, 11 pure Japanese adjectives and 3 Japanese adjectives of Chinese origin) which belong to the meaning distribution area of ‘male’ based on Ruigo Kokugo Jiten are analyzed from the following points of view.

- 1 : objects (67 items) divided into physical or mental characteristics, things and events of adjectives
- 2 : attributes (36 items) divided into physical or mental characteristics and things of adjectives
- 3 : phase and style (10 items) divided into physical or mental characteristics and things of adjectives

Through the above analysis, usages of na adjective loanwords (mainly the usage of ‘dandii (dandy)’) are summarized. One of the most important usages of ‘dandii (dandy)’ is that it is used in everyday life to express the male refined appearance and attitude.

I. 研究の目的と方法

外来系「な」形容詞^{注1)}の研究の視点としては、以下のものが考えられる。①実際に使用されているものの収集・整理、②使用実態の調査・分析、③意味領域及びその分布の分析、④各意味領域の内実の分析、⑤語義及びその原義との違いの分析・記述、⑥語種を異にする類義語間の語義及び位相・文体の違いの分析・記述、⑦基本度の設定

本稿では、④及び⑥の視点から、“姿態”の中の“男性”にかかわる外来系「な」形容詞を〈対象〉〈属性〉〈位相・文体〉の観点から“男性”にかかわる和語・漢語の類義語と比較しながら分析し、「ダンディーな」を中心に意味用法を記述することを目的とする。

II. 分析の対象と観点

(1) 分析の対象

『類語国語辞典』(大野晋/浜西正人著 角川書店1985)の語彙分類体系表に基づき、使用比率^{注2)}によって10段階に分けられた308語の「な」形容詞の意味領域を調査した結果、小分類意味領域(1000項目)の1つである“男性的(男らしくて雄々しい)”の意味領域には、「ダンディーな」「マッチョな」「マニッシュな」の3例が属することがわかった^{注3)}。これらの中から「ダンディーな」を外来系「な」形容詞として取り上げることにした。また、上述の辞典の“男性的”の意味領域に掲載されている23例のうち、「男らしい」「男臭い」「男っぽい」「男性的」「凛凛しい」「精悍」の6例を選び、さらに「あか抜けた」「粋な」「小粋な」「いなせな」「かっこいい」「すてきな」「しぶい」「上品な」

の8例を考察対象に加え、計14例（和語11例、漢語3例）を取り上げた。尚、この辞典では、「ダンディー」は、“男性的（男らしくて雄々しい）”の意味領域に属する「な」形容詞としてではなく、“変人（一風変わった人）”の意味領域に属する名詞として扱われている。

以上15例の“男性”にかかわる語を比較対照しながら、「ダンディーな」の意味用法を分析することにした。

(2) 分析の観点

“男性”にかかわる形容詞（形容動詞を含む）を分析するにあたって、まず、個々の語の〈タイプ〉を調査した。その上で、〈対象〉〈属性〉〈位相・文体〉の観点から分析を行った。以下、調査項目及び分析の観点の内実を示しておく。

〈語種〉

考察対象として取り上げた15例の“男性”にかかわる語の選定の経緯をふまえた上で、語種面からの数量的バランスについて調査した。

〈ランク〉

使用比率によって10段階に分けたランクについて個々の外来系「な」形容詞ごとに調査した^{注4)}。

〈タイプ〉

形容詞・形容動詞は、終止形、連体形、連用形で文に現れるが、これら3種の用法が全て可能か否かは個々の語によって異なる。そこで、形容詞・形容動詞を用法別に以下の6つのタイプに分類し、タイプを個々の語ごとに調査した。

タイプ	I	II	III	IV	V	VI
終止用法	+	+	+	-	-	-
連体用法	+	+	-	+	+	-
連用用法	+	-	-	+	-	+

〈X：対象〉

A：〈人〉

a：性 1：〈男性〉 2：〈女性〉

（それぞれについて使えるか）

b：年齢 1：0～9歳 2：10～19歳

3：20～29歳 4：30～39歳

5：40～49歳 6：50～59歳

7：60～69歳 8：70～79歳

9：80歳以上

（それぞれの年齢層で使えるか）

c：身体 1：体(つき) 2：髪 3：頭
4：顔 5：額 6：眉
7：眉毛 8：目(もと) 9：目尻
10：耳(もと) 11：耳たぶ 12：鼻
13：頬・えくぼ 14：口(もと) 15：唇
16：舌 17：あご 18：首
19：計じ・就じ 20：のど 21：肩
22：腕 23：手 24：指
25：爪 26：胸 27：腹
28：へそ 29：腰 30：尻
31：もも 32：太もも 33：脚
34：ひざ 35：すね 36：ふくらはぎ
37：足 38：足首 39：かかと・きび
40：踵・かかと 41：容姿 42：精・目つき
43：声 44：しぐさ 45：態度・動作
46：行い・体験 47：思考・想像・記憶

（これらの語を対象としうるか）

d：装い 1：服装・身なり 2：着こなし
3：髪型

（これらの語を対象としうるか）

e：精神 1：気持ち・気分 2：心
3：性格 4：人格

（これらの語を対象としうるか）

B：〈もの〉

（人間に直接かわからない“もの”を対象としうるか）

C：〈こと〉

（人間やものなどの具体物を指したり人間に直接かわかるものや事柄を指したりしない抽象名詞や事柄を対象としうるか）

以上の観点に関して、以下の記号を用いて分析した。

○：一般的に対象としうる

△：対象としえなくもないが必ずしも一般的でない

×：対象としえない

〈Y：属性〉

A：〈人〉

a：評価 1：〈主観性〉（主観的な評価であるか）

2：〈客観性〉（客観的な評価であるか）

b：内実 1：〈官能性〉（性的なあやしさを示すか）

2：〈屈強性〉（肉体的な強さを示すか）

3：〈神聖性〉（厳かさを示すか）

4：〈洗練性〉（無駄の無さを示すか）

- 5 : <高尚性> (知性の高さを示すか)
- 6 : <男性性> (男らしさを示すか)
- 7 : <女性性> (女らしさを示すか)
- 8 : <意図性> (意志や意図を示すか)
- 9 : <内面性> (内面的な奥深さを示すか)
- 10 : <傾斜性> (心が歪かれていることを示すか)
- 11 : <経験性> (人生経験の多様さを示すか)
- 12 : <安定性> (穏やかな落ち着きを示すか)
- 13 : <現代性> (現代的な斬新さを示すか)
- 14 : <伝統性> (古風さを示すか)
- c : 感覚 1 : <視覚性> 2 : <聴覚性>
3 : <触覚性>
(それぞれの感覚を示すか)
- d : 時間 1 : <一時性>
(<人>の精神を対象とし、一時的な気持ちや感情を示すか)
2 : <持続性>
(<人>の精神を対象とし、一定期間持続する心や性格を示すか)
- B : <もの>
a : 評価 1 : <主観性> 2 : <客観性>
b : 内実 1 : <神聖性> 2 : <洗練性>
3 : <高尚性> 4 : <傾斜性>
5 : <経験性> 6 : <安定性>
7 : <現代性> 8 : <伝統性>
c : 感覚 1 : <視覚性> 2 : <聴覚性>
3 : <嗅覚性> 4 : <味覚性>

- 5 : <触覚性>
- 以上の観点に関して、以下の記号を用いて分析した。
○ : その属性が明確に認められる
△ : その属性がある程度認められる
× : その属性がほとんどもしくは全く認められない
- <Z : 位相・文体>
A : <人> 1 : <談話性>
(会話の中で話し言葉としてよく使われるか)
2 : <文章性>
(文章の中で書き言葉としてよく使われるか)
3 : <雅語性>
(美意識に基づく優雅な言葉として使われるか)
4 : <俗語性>
(くだけた世俗的なニュアンスを持つ言葉として使われるか)
5 : <日常性>
(日常生活の中で普通によく使われるか)
- B : <もの> 1 : <談話性> 2 : <文章性>
3 : <雅語性> 4 : <俗語性>
5 : <日常性>

以上の観点に関して、その特徴が認められるか否かを〔Y : <属性>〕と同じ記号を用いて分析した。

III. 分析の結果

以上の調査及び分析の結果を、以下の表にまとめて示した。

分析の観点		語種		和語										漢語				
		ランク	外来語	和語										漢語				
		⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑			
X : 対象	A : <人>	a : 性	1 <男性>	○	○	○	△	○	△	△	△	○	△	△	○	△	○	△
		2 <女性>	×	×	×	△	△	△	△	△	×	△	△	△	△	×	△	△
	b : 年齢	1 0~9歳	×	×	×	○	△	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○
		2 10~19歳	×	×	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○
		3 20~29歳	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		4 30~39歳	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○
		5 40~49歳	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
		6 50~59歳	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
		7 60~69歳	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
		8 70~79歳	△	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
9 80歳以上	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○		

分析の観点		語種		和語										漢語							
		ランク	⑧																		
		形容詞	⑧	男らしい	男くさい	男っぽい	男らしい	あか抜けた	粹な	小粋な	いなせな	かっこいい	すてきな	しぶい	男性的な	精悍な	上品な				
X対象	B: <もの>			×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×					
	C: <こと>			×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×				
Y: 属性	A: <人>	a 評価	1	<主観性>	△	△	△	△	△	×	×	×	△	○	○	△	△	△	△	△	
			2	<客観性>	△	△	△	△	△	○	○	○	△	×	△	△	△	△	△	△	△
		b 内実	1	<官能性>	×	×	×	×	×	×	△	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×
			2	<屈強性>	×	△	△	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
			3	<神聖性>	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
			4	<洗練性>	×	○	×	×	×	△	○	○	○	△	△	×	×	×	×	×	△
			5	<高尚性>	○	○	×	×	×	△	×	×	×	×	△	△	×	×	×	×	△
			6	<男性性>	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×
			7	<女性性>	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
			8	<意図性>	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
			9	<内面性>	○	△	×	×	×	△	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	△
			10	<傾斜性>	○	○	×	×	△	○	×	△	△	△	○	×	×	×	×	×	×
			11	<経験性>	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
			12	<安定性>	○	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	△	×	×	△	△
	13	<現代性>	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	○	△	×	×	×	×	×		
	14	<伝統性>	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	c 感覚	1	<視覚性>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		2	<聴覚性>	△	×	×	×	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
		3	<触覚性>	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	
		d 時間	1	<一時性>	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
			2	<持続性>	/	○	/	○	/	/	/	/	/	/	/	△	/	/	/	△	△
		B: <もの>	a 評価	1	<主観性>	/	/	/	/	/	/	×	/	/	○	△	△	△	△	△	△
	2			<客観性>	/	/	/	/	/	/	○	/	/	×	△	△	△	△	△	△	
	b 内実		1	<神聖性>	/	/	/	/	/	/	×	/	/	×	×	×	×	×	×	○	
			2	<洗練性>	/	/	/	/	/	/	○	/	/	△	△	×	×	×	×	△	
			3	<高尚性>	/	/	/	/	/	/	×	/	/	×	△	△	×	×	×	△	
			4	<傾斜性>	/	/	/	/	/	/	×	/	/	×	○	△	×	×	×	△	
			5	<経験性>	/	/	/	/	/	/	×	/	/	×	×	×	×	×	×	×	
6			<安定性>	/	/	/	/	/	/	×	/	/	×	×	×	○	△	△	△	△	
7			<現代性>	/	/	/	/	/	/	○	/	/	×	×	×	×	×	×	×		
8			<伝統性>	/	/	/	/	/	/	×	/	/	×	×	×	×	×	×	×		
c 感覚	1		<視覚性>	/	/	/	/	/	/	○	/	/	○	○	○	○	○	○	○	○	
	2		<聴覚性>	/	/	/	/	/	/	×	/	/	×	△	△	△	△	△	△	△	
	3		<嗅覚性>	/	/	/	/	/	/	×	/	/	×	○	×	×	×	×	×		
	4		<味覚性>	/	/	/	/	/	/	×	/	/	×	○	×	×	×	×	×		
	5	<触覚性>	/	/	/	/	/	/	×	/	/	×	△	△	△	△	△	△	△		
Z: 位相・文体	A: <人>	1	<談話性>	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	△	△	×	×	△	△		
		2	<文章性>	△	△	△	△	△	△	×	×	×	×	○	×	△	△	△	△	△	
		3	<雅語性>	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
		4	<俗語性>	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
		5	<日常性>	△	△	△	○	△	△	△	△	△	△	○	×	△	×	×	×	△	
	B: <もの>	1	<談話性>	/	/	/	/	/	/	△	/	/	○	△	△	×	×	△	△	△	
		2	<文章性>	/	/	/	/	/	/	△	/	/	×	○	×	×	×	×	×	△	
		3	<雅語性>	/	/	/	/	/	/	×	/	/	×	×	×	×	×	×	×	×	
		4	<俗語性>	/	/	/	/	/	/	×	/	/	×	×	×	×	×	×	×	×	
		5	<日常性>	/	/	/	/	/	/	△	/	/	○	△	△	×	×	×	×	△	

IV. 結果の考察

まず、〈語種〉、〈ランク〉、〈タイプ〉について考察しておく。

【類語国語辞典】には、いわゆる形容詞・形容動詞として和語が7例、漢語が11例掲載されている。「ダンディーな」との類義性の考察に主眼を置く場合、和語の「勇ましい」「雄々しい」「猛々しい」の3例は他の例に比して語義的にやや離れていると判断して分析の対象から外した。漢語に関しても同様の理由から「雄偉」「雄渾」「雄健」「雄勁」「簡勁」「勇壯」「壮烈」「壯絶」「悲壯」の9例は分析対象としては取り上げなかった。

新たに付加した7例（「あか抜けた」「粋な」「小粋な」「いなせな」「カッコいい」「すてきな」「しぶい」）の和語、1例（「上品な」）の漢語を含めて、結果として“男性”にかかわる語として、15例を取り上げるようになったが、数量的にみる限り、語種の面では和語の比率が非常に高く、一方で、漢語、外来語の占める割合がかなり低い点が特徴である。

〈ランク〉

「ダンディーな」の使用比率ランクは⑥である。この語は、前述のように【類語国語辞典】では、「な」形容詞としてではなく名詞として掲載されているが、使用比率は比較的高いことを確認しておきたい。

〈タイプ〉

〈タイプ〉については、対象としたすべての例（「あか抜けた」は連体詞として対象から外れている）が、終止、連体、連用の各用法が可能であるタイプのIである。以下、それぞれの連用用法の用例を示しておく。「ダンディーに装う」「男らしく振る舞う」「男くさく感じる」「男っぽく振る舞う」「りりしく装う」「粋に振る舞う」「小粋に振る舞う」「いなせに装う」「かっこよく振る舞う」「すてきに見える」「服の色をしぶくする」「男性的に振る舞う」「精悍に見える」「上品に装う」

以上の結果をふまえた上で、観点別に分析結果を考察しておく。

まず、X：対象についてしておく。

[A：〈人〉]

a：性

〈男性〉〈女性〉の区別なく使用されるものに「男っぽい」「あか抜けた」「粋な」「小粋な」「カッコいい」「すてきな」「男性的な」「上品な」の8例がある。〈女性〉に用いることも全くないわけではないが、ほとんど〈男性〉に用いるものに「りりしい」「しぶい」の2例がある。また、〈男性〉のみに用いるものに「ダンディーな」の他に「男らしい」「男くさい」「いなせな」「精悍な」の4例があるが、この点は“男性”にかかわるいわゆる形容詞（形容動詞を含む）の特徴にあげられよう。

「ダンディーな」は〈男性〉のみに用いられる点において「男らしい」「男くさい」「いなせな」「精悍な」と共通点を持つと言える。

b：年齢

年齢的に制約があるものとなないものとに大別する方法を取る場合^{注5)}、「ダンディーな」「男らしい」「男くさい」「りりしい」「いなせな」「しぶい」「男性的な」「精悍な」の8例は制約があることになる。また、年齢的に制約があるものを

①一定の年齢以上で主として用いられるもの

②一定の年齢未満で主として用いられるもの

③一定の年齢枠の中で主として用いられるものの三つに分類する方法をとる場合、「男らしい」「男くさい」「りりしい」「しぶい」「男性的な」「精悍な」は①に、「いなせな」は②に、「ダンディーな」は③に属することになる。これは、①に属するものが、身体的あるいは精神的成長、②に属するものが、心身共に生き生きとした若い男性の清潔さや新鮮さ、また、③に属するものが、人生経験の多様さや心身の成熟とある程度の強さを前提にしていることによる。

「ダンディーな」は、年齢の面では、高齢者を除く中年以上の大人を対象とする点において、“男性”にかかわるいわゆる形容詞（形容動詞を含む）の中で特異性を持つと言える。

c：身体

この観点に関しては、

① 1 体（つき）、

② 2 髪～39 かかと・きびす、

③ 40 容貌・顔立ち、41 容姿、

④ 42 表情・目つき～44 しぐさ、

⑤ 45 態度・動作, 46 行為・体験,

⑥ 47 思考・想像・記憶,

の六つに分けて考察しておく。

① 1 体 (つき)

“体 (つき)” は, “肉体としての体全体” のことであるが, これを対象とするものに「男らしい」「男っぽい」「カッコいい」「すてきな」「男性的な」の5例がある。

② 2 髪~39 かかと・きびす

ここでは4例以上に○がつくものについて考察しておく。“体”を構成する部分の中で, “顔”を対象とするものに, 「カッコいい」「すてきな」「しぶい」「上品な」の4例がある。“眉”を対象とするものに「男っぽい」「カッコいい」「すてきな」「男性的な」「上品な」の5例がある。“眉毛”も同様である。“肩”を対象とするものに「男っぽい」「カッコいい」「すてきな」「男性的な」の4例がある。“腕”“胸”“尻”も同様である。“男性”にかかわる語は, 「男っぽい」「カッコいい」「すてきな」「男性的な」以外は, 総じて“体”を構成する部分には対象としにくい。「ダンディーな」は“体”を構成する部分を対象としない点で「男くさい」「あか抜けた」「粋な」「小粋な」「いなせな」と似ている。

③ 40 容貌・顔立ち 41 容姿

“容貌・顔立ち”は, 部分的要素を含めた顔全体の形や様子を, “容姿”は顔立ちと体つきを含めた体全体の形や様子であり, いずれも総合的な姿や様子を示す。両者を共通に対象とするものに「ダンディーな」「りりしい」「カッコいい」「すてきな」「しぶい」「男性的な」「上品な」の7例がある。前者のものに「男らしい」「男くさい」「男っぽい」「精悍な」の4例がある。後者のものものに「あか抜けた」「粋な」「小粋な」「いなせな」の4例がある。15例中の11例が対象とする点において, “容貌・顔立ち”“容姿”は, “c:身体”の中では, それを対象とするかなり層の厚い語群を有していると言える。「ダンディーな」は, “容貌・顔立ち”“容姿”を対象とする点で「りりしい」「カッコいい」

「すてきな」「しぶい」「男性的な」「上品な」などと似ている。

④ 42 表情・目つき~44しぐさ

“表情”は顔による, “声”は音声器官による, “しぐさ”は身体の部分による動きを含む様子であり, いずれも一種の身体表現である。三者を共通に対象とするものに「粋な」「小粋な」「カッコいい」「すてきな」「しぶい」の5例がある。「ダンディーな」は, “声”“しぐさ”の二者を共通に対象とする点で「男っぽい」「いなせな」と似ている。

⑤ 45 態度・動作, 46 行為・体験

“しぐさ”より広範な動きを含む様子を“態度・動作”とし, それを一般化したものを“行為・体験”とした。両者共に対象とするものに, 「ダンディーな」「男らしい」「男くさい」などの8例が, “態度・動作”のみを対象とするものに, 「あか抜けた」「小粋な」「いなせな」「しぶい」の4例がある。「ダンディーな」は“態度・動作”“行為・体験”を共通に対象とする点が特徴的である。

⑥ 47 思考・想像・記憶

“思考・想像・記憶”は, 人間の頭脳による能動的な活動であり, “行為・体験”に隣接するものであるが, これを対象とするものに, 「男らしい」「男くさい」「男っぽい」「すてきな」「男性的な」の5例がある。「ダンディーな」は“思考・想像・記憶”を対象としない。

d: 装い^{注6)}

1 服装・身なり

身に付けた衣服の様や衣服を着た姿を“服装・身なり”としたが, 「男くさい」「精悍な」以外の13例がこれを対象とする。

2 着こなし

衣服の身に付け方を“着こなし”としたが, “服装・身なり”と同じ (○△の違いはあるが) 結果である。

3 髪型

“髪”が体の一部であるのに対して, “髪型”はファッションともいふべき装いであるが, 「男くさい」「りりしい」「精悍な」以外の12例

のものがこれを対象とする。

e: 精神

1 気持ち・気分

その場における一時的な心の状態、すなわち感情を“気持ち・気分”として取り上げたが、これを対象とするものは「すてきな」の1例のみである。

2 心

必ずしも一時的ではない心のあり様、すなわち情意を中心とした精神活動を“心”として取り上げたが、これを対象とするものは「男らしい」の1例のみである。身体の様子に関する‘簡素さ’や‘たくましさ’を‘潔さ’や‘勇気’として“心”にも適用したものと言えよう。

3 性格

人間の持続的な性向を“性格”として取り上げたが、これを対象とするものは「男らしい」「男っぽい」「男性的な」「上品な」の4例である。

4 人格

人間の持続的な品格を“人格”として取り上げたが、これを対象とするものは、「男らしい」の1例のみである。

「ダンディーな」をはじめとして“男性”にかかわるいわゆる形容詞（形容動詞を含む）は、「男らしい」の1例を除いて、人間の内面に深く関与する語を対象としない。

[B: <もの>]

人間に直接かかわらないものを“もの”としたが、○、すなわち‘一般的に対象としうる’ものとして、「あか抜けた」「かっこいい」「すてきな」「しぶい」「男性的な」「上品な」の6例がある。

「ダンディーな」は“もの”を対象としない。

[C: <こと>]

人間やものなどの具体物を指したり人間に直接かかわるものや事柄を指したりしない、抽象名詞や事柄を“こと”としたが、△、すなわち‘対象としえなくもないが必ずしも一般的でない’ものとして「すてきな」の1例があるのみである。

「ダンディーな」は“こと”を対象としない。

次に、Y: 属性についてみておく。

[A: <人>]

a: 評価

<主観性><客観性>がいずれも△、つまり明確にどちらがあるとも言えないものは、「ダンディーな」「男らしい」「男くさい」などの11例である。<客観性>よりも<主観性>の強いものに、「かっこいい」の1例がある。一方、<主観性>よりも<客観性>の強いものは、「あか抜けた」「粹な」「小粋な」の3例である。この3例は、<人>に関する“男性”的な様子を比較的客観的に評価する語群と言える。

b: 内実

1 <官能性>

<官能性>すなわち“性的なあやしさ”が‘ある程度認められる’ものに「粹な」「小粋な」「いなせな」の3例がある。これらは、内実として“どこことなく漂う色気”を有している。

2 <屈強性>

<屈強性>すなわち“肉体的な強さ”が‘ある程度認められるもの’に「ダンディーな」「男らしい」「男くさい」などの7例がある。

3 <神聖性>

<神聖性>すなわち“厳かさ”が‘明確に認められる’ものに「上品な」の1例がある。

4 <洗練性>

<洗練性>すなわち“無駄の無さ”が‘明確に認められる’ものに「ダンディーな」「あか抜けた」「粹な」などの5例が、また、‘ある程度認められる’ものに「りりしい」「かっこいい」「すてきな」などの4例がある。

5 <高尚性>

<高尚性>すなわち“知性の高さ”が‘明確に認められる’ものに「ダンディーな」の1例が、また、‘ある程度認められる’ものに「りりしい」「すてきな」「しぶい」などの4例がある。

6 <男性性>

<男性性>すなわち“男らしさ”が‘明確に認められる’ものに「ダンディーな」「男らしい」「男くさい」などの8例が、また、‘ある程度認められる’ものに「かっこいい」の1例がある。これらは、“たくましさ、勇気、潔さな

どの男らしさ”を示している。

7 <女性性>

<女性性>すなわち“女らしさ”が‘ある程度認められる’ものに「すてきな」の1例がある。

8 <意図性>

<意図性>すなわち“意志や意図”が‘明確に認められる’ものに「ダンディーな」の1例がある。

9 <内面性>

<内面性>すなわち“内面的な奥深さ”が‘明確に認められる’ものに「ダンディーな」の1例が、また、‘ある程度認められる’ものに「男らしい」「りりしい」「しぶい」などの4例がある。

10 <傾斜性>

<傾斜性>すなわち“心が惹かれていること”が‘明確に認められる’ものに「ダンディーな」「男らしい」「りりしい」などの5例が、また‘ある程度認められる’ものに「男っぽい」「粋な」「小粋な」などの4例がある。

11 <経験性>

<経験性>すなわち“人生経験の多様さ”が‘明確に認められる’ものに「ダンディーな」の1例がある。これは、‘善・悪や幸・不幸などを含めた幅広く多様な人生経験’を示している。

12 <安定性>

<安定性>すなわち“穏やかな落ち着き”が‘明確に認められる’ものに「ダンディーな」「しぶい」の2例が、また、‘ある程度認められる’ものに「男らしい」「男性的な」「上品な」の3例がある。

13 <現代性>

<現代性>すなわち“現代的な斬新さ”が‘明確に認められる’ものに「ダンディーな」「あか抜けた」「かっこいい」の3例が、また、‘ある程度認められる’ものに「すてきな」の1例がある。

14 <伝統性>

<伝統性>すなわち“古風さ”が認められるものはない。

c : 感覚

1 <視覚性>

<視覚性>は全15例に明確に認められる。

2 <聴覚性>

<聴覚性>、具体的には“人間の声”に対する感覚が‘明確に認められる’ものに「すてきな」「しぶい」「上品な」の3例が、また、‘ある程度認められる’ものに「ダンディーな」「男っぽい」「りりしい」などの8例がある。

3 <触覚性>

<触覚性>、具体的には“ものの手ざわり”に対する感覚が‘明確に認められる’ものに「すてきな」の1例がある。

d : 時間

1 <一時性>

<一時性>すなわち“人間の一時的な気持ちや感情”であることが認められるものに「すてきな」の1例がある。“男性”にかかわるいわゆる形容詞（形容動詞を含む）は、“気持ち”や“感情”などは対象としにくいと言えよう。

2 <持続性>

<持続性>すなわち“人間の一定期間持続する心や性格”であることが‘明確に認められる’ものに「男らしい」「男っぽい」の2例が、また、‘ある程度認められる’ものに「男性的な」の1例がある。“男性”にかかわるいわゆる形容詞（形容動詞を含む）は、“外面的な男らしさ”と共に“人間の一定期間持続する心や性格”という“内面的な男らしさ”までを対象とするものが一定数ある点は特徴的である。

[B : <もの>]

a : 評価

<主観性><客観性>に関しては [A : <人>] と同様である。

b : 内実

<神聖性><洗練性><高尚性><傾斜性><経験性><安定性><現代性><伝統性>に関しては [A : <人>] と同様である。

c : 感覚

<視覚性><聴覚性>^{注7)}<触覚性>に関しては [A : <人>] と同様である。

3 <嗅覚性>

〈嗅覚性〉, 具体的には“ものの匂い”に対する感覚が‘明確に認められる’ものに「すてきな」の1例がある。

4 〈味覚性〉

〈味覚性〉, 具体的には“ものの味”に対する感覚が‘ある程度認められる’ものに「すてきな」の1例がある。

次に, Z: 位相・文体についてみておく。

[A: 〈人〉]

1 〈談話性〉

〈談話性〉が‘明確に認められる’ものに「カッコいい」の1例が, また, ‘ある程度認められる’ものに「ダンディーな」「男らしい」「男くさい」などの12例がある。

2 〈文章性〉

〈文章性〉が‘明確に認められる’ものに「すてきな」の1例が, また, ‘ある程度認められる’ものに「ダンディーな」「男らしい」「男くさい」などの10例がある。

3 〈雅語性〉

〈雅語性〉が‘ある程度認められる’ものに「すてきな」の1例がある。

4 〈俗語性〉

〈俗語性〉が‘明確に認められるもの」に「カッコいい」の1例がある。

5 〈日常性〉

〈日常性〉が‘明確に認められる’ものに「男っぽい」「カッコいい」の2例が, また, ‘ある程度認められる’ものに「ダンディーな」「男らしい」「男くさい」などの10例がある。

[B: 〈もの〉]

〈談話性〉〈文章性〉〈雅語性〉〈俗語性〉〈日常性〉に関しては[A: 〈人〉]と同様である。

最後に本稿のまとめとして, 「ダンディーな」の意味用法について記しておく。

①「ダンディーな」は, 高齢者を除く中年以上の男性を対象とし, 主としてその服装・身なり・着こなしなどの‘装い」が意識的に洗練されていて現代的な様子を表す。また, ‘装い」以外に容貌・顔立ち・容姿や声・しぐさ・態度・行為などを対象とすることもある。ひげ, 髪型, サングラス, メガネ, 帽子(特に山

高帽やハンチング帽), 時計(特に懐中時計)などの一種の装飾品によって対象の外面的なイメージの演出も可能である。②プラスイメージの語である。③①の外面的なイメージから, 成熟した大人の男性の心身のしなやかな強さを暗示する場合がある。また, ①のような様子に対して使用者が心惹かれることを暗示している。④壮年期の‘知性の高さ’‘内面の奥深さ’‘人生経験の多様さ’‘落ち着き」などを内包している。⑤「男らしい」「男っぽい」は比較的類義性の高い語であるが, 対象年齢の他に, 「ダンディーな」が, 少なくとも身体の部分や精神を対象としない点で異なる。また, 「粹な」「小粋な」も比較的類義性の高い語であるが, 「ダンディーな」が壮年期の男性の人生経験の多様さや落ち着きを内包している点で異なる。⑥会話や文章の中で比較的よく使われる。⑦日常生活の場面で言い換えが可能な語が他にないので, 日常語として比較的よく使われる。⑧終止, 連体, 連用の各用法が可能である。⑨“男性”にかかわる類義語間で, 特異な位置を占めている。

今後は, “男性”以外の“姿態”にかかわる外来系「な」形容詞の意味用法の記述及びそれらと語種を異にする類義語間の語義, 位相・文体の分析・記述を行いたい。

[注]

- 1) 戸田利彦「外来語に関する基礎的研究(Ⅱ) — 「な」形容詞の語形を中心に —」, 『比治山女子短期大学紀要』第29号, 1994, P. 54.
- 2) 「話すとき使う」とした人数の全体に占める割合, すなわち使用人数の比率を, 使用比率と略記する。
- 3) 戸田利彦「外来語に関する基礎的研究(V) — 外来系「な」形容詞の意味分布について —」, 『比治山大学現代文化学部紀要』第3号, 1996, P. 19.
- 4) 戸田利彦「外来語に関する基礎的研究(Ⅲ) — 話しことばにおける「な」形容詞の使用実態 —」, 『比治山大学現代文化学部紀要』創刊号, 1994, 「外来語に関する基礎的研究(Ⅳ) — 外来系「な」形容詞の使用比率 —」, 『同上紀要』第2号, 1995, の調査結果に基づく。使用比率ランクは, 「話すとき使う」とした人数の割合による以下の基準

(%) で、10段階を設定した。㉠ (100~91) A (90~81) ㉡ (80~71) B (70~61) ㉢ (60~51) C (50~41) ㉣ (40~31) D (30~21) ㉤ (20~11) E (10~0)

- 5) △または×を含むものを“年齢的に制約があるもの”，全て○ばかりのものを“年齢的に制約のないもの”とした。
- 6) “服装”“身なり”などは，“人間に直接かかわるもの”として “[A : <人>]” の中で扱った。

7) 具体的には“ものの音”に対する感覚であるが、該当する5例は単なる“物音”ではなく、ある程度意図的に創り出された“音”に対する感覚を有する語群である。

<キーワード>

外来系「な」形容詞／男性／対象／属性／位相・文体
戸田 利彦 (言語文化学科日本語文化専攻)

(2002.11.7 受理)